

鶴居村がある
東北北海道は大自然に
囲まれた
リゾート地です!



Red-Crowned Crane Guide Book



鶴の居る村 タンチョウガイドブック



鶴居村は北海道釧路総合振興局管内のほぼ中央に位置し、東は標茶町、北西は釧路市阿寒町と弟子屈町に隣接、南は釧路湿原国立公園を挟んで釧路市と釧路町に對しています。釧路市から鶴居市街まで車で40分、釧路空港からも約40分のところにあります。

DATA BASE

【人口】2,480人 ※令和5年7月末現在

【面積】571.80km²

【位置】東経144度08分~144度25分
北緯43度04分~43度27分

【広さ】東西23km 南北42km



ふるさと情報館ではタンチョウに関する展示が楽しめます【入場無料】(場所は10P参照)

お問い合わせ先

〒085-1206 北海道阿寒郡鶴居村鶴居東5丁目3番地

鶴居村教育委員会

Tel: 0154-64-2050 FAX: 0154-64-2900

<https://www.vill.tsurui.lg.jp>



©和田 正宏

日本語版データ



English data



鶴が選んだ村・鶴と暮らす村

鶴居村では、一年を通じてタンチョウが暮らしています。特に冬になると道内各地から、厳しい冬を越すために、多くのタンチョウが集まってきます。その理由は、

- 1950年代より地域住民による冬の給餌活動が続けられていること。
- わき水が豊富で厳冬期でも凍らない水辺が多く、ねぐらとして利用でき、また自然の餌がとれること。
- 多くのタンチョウが繁殖する釧路湿原があること。

豊かな自然と地元の人々の愛情がタンチョウを支えてきたのです。鶴居村は「鶴が選んだ村」「鶴と暮らす村」なのです。



▲雪裡川と釧路湿原

釧路湿原とタンチョウ

釧路湿原は、面積約20,000ヘクタール(東京ディズニーリゾート100個分)を誇る日本最大の湿原です。湿原に広がるヨシ原は、タンチョウの貴重な繁殖地となるほか、多くの希少な生き物のすみかになっています。

中心部が天然記念物に指定されるほか、1980年には日本で初めてラムサール条約に登録、1987年には国立公園に指定され、その価値が世界的に認められています。

また、湿原には、洪水防止、気象緩和、温暖化防止などの機能も確かめられています。



タンチョウってこんな鳥

タンチョウは日本最大級の鳥で、1952年(昭和27年)に特別天然記念物に指定されています。雪原に舞う姿が印象的ですが、実は一年中北海道でくらしています。



標準和名:タンチョウ (丹頂:てっぺんが赤いことに由来する名前)
英名:Red-crowned crane 学名:Grus japonensis (日本のツル)

▲日本最大級の大きさ

タンチョウの1年

春

spring

3月下旬から5月にかけて、湿原の中で枯れたヨシの茎を積み重ねた座布団のような巣を作り、卵を2個産みます。オスとメスが交代で卵を温めること約1ヶ月でヒナが誕生します。



▲抱卵 (撮影地:丹頂鶴自然公園)



▲抱卵交代 (撮影地:丹頂鶴自然公園)

夏

summer

ヒナは生後数日で巣を離れ、親についていながら餌をもらいます。魚や昆虫類、貝や、ミミズ、カエルなどの小動物、植物の芽や種など、いろいろなものを食べます。小さいうちは、キツネやカラスなど多くの天敵がありますが、親に守られながら、成長していきます。

生後100日前後で、飛べるようになります。



▲生後1週間ほどのヒナ (撮影地:丹頂鶴自然公園)



▲生後2ヶ月ほどのヒナ

秋

autumn

早い家族は、9月ごろから繁殖地の湿原を離れ鶴居村に移動してきます。9月下旬から、デントコーン(家畜飼料用トウモロコシ)の収穫がはじまると、収穫後の畑に集まり、こぼれ落ちたコーン粒を食べる他、牧草地などで餌を探します。



▲秋・トウモロコシ畑に集まったタンチョウ

タンチョウの1年



11月中旬以降になると、冬の給餌場である鶴見台や、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに餌を求めて集まるようになります。給餌場でまく餌もデントコーンです。雪が積もるようになると給餌場に集まるタンチョウは増え、多いときで200羽以上になることもあります。



▲サンクチュアリに集まるタンチョウ

夕方になると、冬でも凍らない川に移動し、集団でねぐらをとります。水辺では天敵に襲われづらいこと、特に厳冬期では凍らない水の中の方が温かいことが、川でねぐらをとる主な理由と考えられています。

日が昇り明るくなるにつれ、給餌場などに向かって次々に飛び立ちます。



▲川の中で夜を過ごす



2月下旬頃から給餌場では交尾行動や、つがいが幼鳥を追い払い独り立ちさせる「子別れ行動」が見られるようになります。

冷え込みが緩み、雪解けが進むようになると、新たな繁殖に向けて道東各地の湿原への移動がはじまり、給餌場やねぐらに集まるタンチョウは減っていきます。

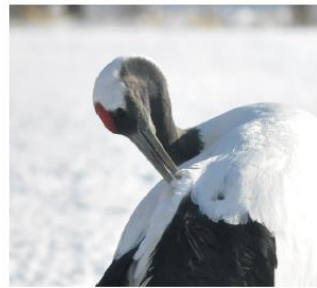


▲交尾を促すメス(左)とオス(右)



▲興奮して赤い部分が大きくなっている

頭の赤色は羽毛ではなく皮膚が露出しているもので、ニワトリのとさかのようなものです。普段は、赤い部分は小さく、興奮すると、大きくなります。



▲落ち着いている時の赤い部分は小さい



タンチョウ保護の歴史

かつて明治時代中期までは、タンチョウは北海道各地にいて冬は本州まで渡りをしていたといわれています。しかし乱獲と急速な開発によりすみかの湿原を失ったために激減し、一時は絶滅したと思われていました。

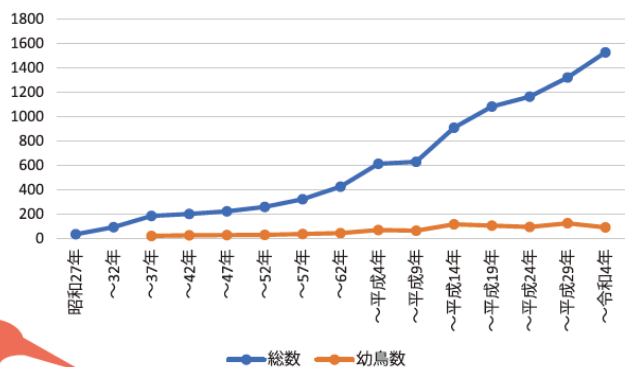
1924年(大正13年)に鶴居村のチルワツナイ川流域・キラコタン岬で、十数羽が再発見されました。その後1935年(昭和10年)に天然記念物、1952年(昭和27年)には特別天然記念物に指定されました。

1952年の猛吹雪の冬、鶴居村の幌呂小学校付近で、子供たちが畑にうすくまっているタンチョウを見つけました。早速学校では畑に「にお」(トモロコシを刈り取り円錐形に束ねて立てる保存方法)を立て、家から持ち寄った穀類をまいたところ、タンチョウが食べに来るようになりました。このニュースがきっかけとなり、給餌が広まりました。以来地元の人たちの愛情に支えられ、冬の餌不足が解消されたタンチョウは、順調に数が回復してきました。鶴居村では、約600羽が越冬します。



▲におとタンチョウ(幌呂小学校提供)

■タンチョウ確認数の推移 北海道一斉調査より



7

鶴居村とタンチョウ保護の歩み

1924	大正13年	・鶴居村チルワツナイで十数羽の生存確認
1935	昭和10年	・釧路湿原の一部が「釧路丹頂鶴繁殖地」として天然記念物に指定
1937	12年	・舌辛村から分村し鶴居村が誕生
1952	27年	・幌呂小学校で給餌に成功 ・「釧路丹頂鶴繁殖地」が「釧路の丹頂およびその繁殖地」に名称変更し、特別天然記念物に指定 ・初の生息状況一斉調査(33羽確認)
1962	37年	・文化庁が初めてタンチョウ給餌人を委嘱 ・下雪裡小学校で給餌を始める
1964	39年	・タンチョウが「北海道の鳥」に指定される
1967	42年	・釧路湿原の一部が「天然記念物釧路湿原」に、タンチョウが地域を定めない特別天然記念物に指定
1974	49年	・下雪裡小学校が閉校(現鶴見台で給餌が続けられる)
1980	55年	・釧路湿原がラムサール条約に登録
1985	60年	・「鶴居村タンチョウ愛護会」が発足
1987	62年	・釧路湿原国立公園指定 ・日本野鳥の会「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」開設
1992	平成4年	・タンチョウによるデントコーン畑での種や芽の食害が増え、追い払い活動などの対策がはじまる
1993	5年	・タンチョウが種の保存法による「国内希少野生動植物種」に指定され、「保護増殖事業計画」が策定される
2006	18年	・一斉調査で初の1,000羽超え(1,081羽)
2008	20年	・タンチョウコミュニティ発足
2018	30年	・官民が一体となってタンチョウとの共生に向けた取組を進める「鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議」が発足。「タンチョウ鶴居モデル」の構築、タンチョウとの共生に向けた取組に着手 ・タンチョウ自然専門員を教育委員会に配置
2024	令和6年	タンチョウ再発見から100年

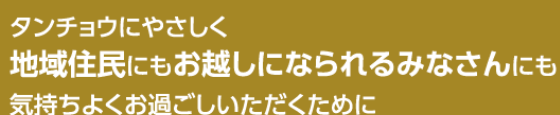
タンチョウ鶴居モデルの理念

先人がタンチョウを絶滅の危機から救った歴史を誇りとし、将来にわたりタンチョウと共生する鶴居村であり続けるために、タンチョウ鶴居モデルを掲げる。

タンチョウ鶴居モデルは、タンチョウの安定的な生息を保証するため、自然環境と社会環境の向上をすすめる、タンチョウが村民はもとよりすべての人々に愛され、その存在が地域産業の振興と発展に寄与することで、活力ある村となるための取組を続ける。

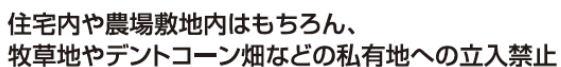
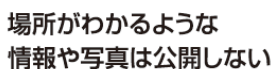
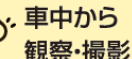
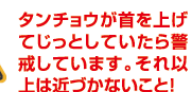
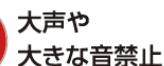
- 主な取組
- ・適正な給餌のあり方の確立、適正な個体数の維持
 - ・地域住民への普及啓発、タンチョウ保護の歴史の伝承
 - ・農業との共生に向けた取組
 - ・タンチョウ観察・撮影の鶴居ルールの確立・普及

8



交通マナーを守って観察・撮影をしましょう。特に釧路と鶴居をつなぐ幹線道路 **53** での駐停車や急停止は、迷惑・危険ですので絶対におやめください

ごみのポイ捨て禁止



冬のタンチョウ観察・撮影地

タンチョウにやさしく、来訪するみなさんが気持ちよく観察・撮影を楽しめるよう以下の“鶴居ルール”を守りましょう

観察・撮影エリア

立入禁止

観察&撮影禁止・駐停車禁止

車の乗入禁止



給餌場内や
ねぐらとなる川への
物の投げ入れ禁止



喫煙禁止

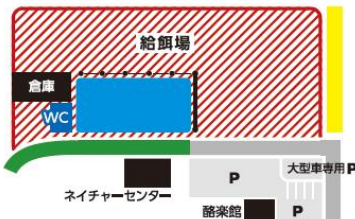


場所取り禁止



ペット等動物の
同伴禁止

鶴居・伊藤
タンチョウ
サンクチュアリ



40年近く給餌を続けてきた故伊藤良孝さんの理解・協力のもと公益財団法人日本野鳥の会が設置し、運営する給餌場。屋外観察場で自由に観察・撮影できるほか、併設のネイチャーセンター(入館無料)では暖かい屋内からゆっくり観察でき、常勤のレンジャーの解説も受けられる。12月中旬から2月下旬まではほぼ一日中タンチョウが飛来しており、多い時で200羽を超えるときも。

ネイチャーセンター開館日:10/1~3/30(火・水・第1・3・5木と12/26~1/1は休館)

※屋外観察場は休館日でも利用可

TEL:0154-64-2620 FAX:0154-64-2239 E-mail:tancho_sanc@wbsj.org

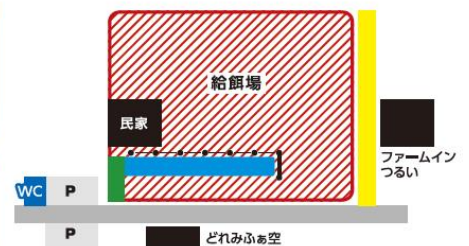
給餌時間(目安):午前9時ごろ・午後2時ごろ(状況により異なる)

鶴見台

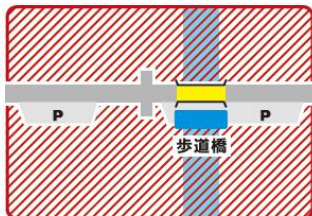
給餌をしていた小学校の廃校に伴い、故渡部義明・トメさん夫妻が給餌を引き継ぎ、現在も続く。12月中旬から2月下旬まではほぼ一日中タンチョウが飛来しており、多い時で200羽を超えるときも。屋外観察場はいつでも利用可。

問合せ先:0154-64-2050(鶴居村教育委員会)

給餌時間:午前9時前後・午後1時から2時ごろのことが多いが、飛来状況等により時間が大きく変わる



音羽橋



タンチョウが集団でねぐらをとる川をタンチョウを脅かすことなく観察・撮影できる橋で、観察・撮影用の歩道橋が併設されている(車道での観察・撮影は危険なので不可)。例年は12月中旬から2月下旬にかけて、多い時で100羽前後がねぐら利用する。特に厳冬期の日の出前後では幻想的な風景が期待できる。午前中の早い時間までにほとんどのタンチョウが餌場に移動し、夕方暗くなり始めると餌場から戻ってくる。

菊池牧場

サンクチュアリからねぐらに帰っていくタンチョウが目の前を飛んでいきます。

※観察場所は私有地です。ご理解とご配慮の上ご利用ください



音羽橋を
見下ろす
高台

音羽橋一帯を見下ろせる高台で、早朝にねぐらで羽を休めるタンチョウの群れを俯瞰できます。

※駐車スペースが限られます

タンチョウのしぐさを
じっくり見てみよう!

観察のポイント

ただ見ているだけでも美しいタンチョウですが、
しぐさが分かるとより一層楽しくなります。

鳴き合い

つがいのタンチョウが上を向き「コーカッカッ、コーカッカッ」と鳴き合います。なわばりの主張やつがいの絆を深めるための鳴き方と考えられます。その様子から、オスとメスが見分けられます。

- ①オス:先に「コーッ」と一声。翼を高く持ち上げる事が多い。
- ②メス:オスに続いて「カッカッ」と二声



▲①オス(左)と②メス(右)

求愛ダンス



つがいが飛び上がったたり、かがんだり、走り回ったりして、まさに踊っているかのような行動は「求愛ダンス」と呼ばれます。1～2月によく見られます。

繁殖前につがいの絆を深めるための行動と言われていますが、幼鳥が同じような行動をとることもあり、求愛のためだけの行動ではないようです。

けんか

頭の赤を大きくして背伸びをして、ゆっくりと歩く威嚇行動にはじまり、相手に突進したり、蹴りを入れたりします。給餌場内でゆっくり観察すると、このような小競り合いがよく見られます。



飛び立ちの合図

首を伸ばした状態で同じ方向を見て何羽かが立ち止まっていたら、飛び準備です。よく耳をすますと、「クオクオクォ...」と短く小さな声を出しています。



▲飛び立ちの合図

幼鳥

ピーピーとかわいらしい声がきこえてきたら、よく見ると首が茶色のタンチョウが見つかるでしょう。

生後1年に満たない幼鳥で、春先2、3月ごろまでは親と一緒に行動します。



タンチョウの給餌について

給餌は、冬の餌不足を解消するために行っているものです。タンチョウ保護のための大切な場所であることをご理解ください。



給餌時期

11月中旬～3月上旬、積雪等の状況に応じて、開始終了時期は年により変化します。

給餌時間

厳冬期(12月中～2月下)は午前と午後の1日2回。給餌時間はその日の飛来羽数や天候により異なります。厳冬期は、給餌時間でなくてもタンチョウがいなくなることはほとんどありません。